

報告第15号

株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類の提出について
株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出します。

令和元年9月6日提出

佐野市長 岡部正英

理由

株式会社どまんなかたぬまから、別紙のとおり経営状況を説明する書類が提出されたので報告するものです。

参考

地方自治法抜粋

（財政状況の公表等）

第243条の3 …省 略…

2 普通地方公共団体の長は、第221条第3項の法人について、毎事業年
（株式会社どまんなかたぬま）

度、政令で定めるその経営状況を説明する書類を作成し、これを次の議会に提出しなければならない。

3 …省 略…

地方自治法施行令抜粋

（法人の経営状況等を説明する書類）

第173条 地方自治法第243条の3第2項に規定する政令で定めるその経営状況を説明する書類は、当該法人の毎事業年度の事業の計画及び決算に関する書類とする。

2 …省 略…

令和元年度

(株)どまんなかたぬま

事業計画書及び収支予算書

自 平成31年4月1日

至 令和 2年3月31日

【株式会社どまんなかたぬま】

令和元年度株式会社どまんなかたぬま事業計画書

令和元年度の日本経済は、輸出増加に加え、消費や設備投資など内需が底堅く推移し、さらには経済対策の効果が表れることで、引き続き緩やかな回復を維持していくと見込まれます。しかし、10月に消費税率の引き上げが予定されており、この消費税率引き上げが日本経済にどのように影響してくるかが懸念されるところです。また、世界経済も、政治や金融市場、地政学的なリスク、米中貿易摩擦に伴う景気の下振れ懸念も残り、回復の基盤は脆弱と考えられます。10月の消費税増税への懸念、人口減少及び労働者人口減少による人手不足等、今後の景気や消費、労働環境の見通しに対し、依然先行き不透明な状況が続くと思われれます。

このような状況において、当社は充実した施設の魅力をさらに上げる努力をし、お客様が期待する以上に豊富な商品とメニューと心のこもったサービスを提供し、さらにライフスタイルを提案できる店舗づくりを目指し、お客様に「美味しさと楽しさ」を提供致します。

施設面においては、近い将来、農産物直売所「朝採り館」の改装を実施し、よりお買物をしやすく、地域の人が繰り返し利用していただける直売所を目指して参ります。

休憩スペースの充実としまして、屋外でのくつろぎの場所を提供し、屋内においては、土日祝祭日に大ホールの使用がない場合、臨時休憩所として開放して、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるように、快適なフリースペースを提供して参ります。

販売部門においては、4月18日にパン工房麦畑を全面リニューアルし高級生食パン特化型ベーカリー「うまい食パン」に生まれ変わりました。お客様から大変ご好評をいただき、現在も行列の絶えない店舗となっております。非常に話題性もあり現在の食パンブームにも適応している店舗ですので、今期の重点戦略店舗と位置付けております。朝採り館では、特に果実の販売に力を入れ、いちごを中心に販促を掛けて参ります。野菜の品揃え、販売スキル共に県内でもトップクラスの直売所を目指し、売上UPに繋げて参ります。顔の見える生産者の野菜にこだわり、地元をはじめ、全国からもこだわりの商品を集め、独自性およびブランド力を高めた販売を展開して参ります。また、物産展等も抜本的に見直し、単県での物産展を数多く打ち出し、お客様に新しい提案ができるようにして参ります。

飲食部門においては、食材を吟味し、旬の素材を活かした新メニューの開発、充実した施設と利便性を生かした飲食企画の提案を行います。女性のお客様を意識し、健康に関連したメニュー作りをして参ります。

接客サービス向上面においては、基本的な挨拶・接遇をもう一度学び直し、接客の基本が身に着く研修を行い、当社の理念・価値観の基に、全員が同じレベルで接客サービスが出来るように力を入れて参ります。

社会貢献面においては、「道の駅」としての役割を十分に発揮すると共に、多方面への寄付事業、また、移動スーパーとくし丸の稼働により、地域の買い物弱者の救済に益々力を入れて参ります。今年度の取り組みとして、佐野警察署と道の駅どまんなかたぬまの間で連携協定を結び、今まで以上の連携を取れるようにし、地域の防犯対策や交通安全活動にも積極的に寄与して参りたいと考えております。

イベント面においては、従来の恒例イベントの他、みんなが笑顔になれる「どまんなかたぬ

ま」ならではの特色ある、更に質の高いイベントを企画し、実行致します。

媒体、メディア戦略面では、公式ホームページを軸にSNSを有効活用し、インターネットでの情報発信サービスをさらに加速させて行きます。お客様同士の口コミで来店客数が増える様に施設内にアートを取り入れ、そこで撮った写真を投稿していただくような仕組みを作ると共に、旬な情報を弊社から投稿し、新規顧客の確保及び誘客を積極的に実施致します。また、定期的に折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体戦略も合わせて実施して参ります。

最後に、お客様が体験できるようなイベント・仕掛けをより多く推し進め、単に商品を売るだけ、メニューを提供するだけ、ではなく、引き続き体験を通した“コト消費”の充実を図って参ります。お客様の潜在ニーズをキャッチする努力をし、新しい商品・サービスを提供して参ります。また、SNSを活用した広報戦略を計画し、お客様からお客様へ情報を拡散して頂ける方策を取り、今まで利用したことがない、または全く当店を知らなかった新しいお客様をいかに取り込んで行くかを考え、弊社のサービスや商品の提案・イベント等を共有して頂ける仕組みを作り、新しい「どまんなかたぬま」を作り上げて行く所存です。

このような取り組みを行い、充実した施設の魅力を十分に発揮し、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。

そして名実ともに「日本一の道の駅」へまた一步近づく為に、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
(平成30年度事業報告書中、1営業の概況、(2) 会社が対処すべき課題 を再掲)

業種	業種	業種	業種	業種
101.1	100.001	808.15	800.85	電気業
282	100.011	5.001	5.400	電気業
285	101.01	107.04	100.00	電気業
487.4	108.04	82.53	80.00	電気業
878.8	101.01	384.08	383.00	電気業
20.24	101.01	7.04	38.50	電気業
0	100.001	1.000	13.000	電気業
333	100.0	43.53	100.53	電気業
0	100.0	0	0	電気業
000	100.00	88.00	80.00	電気業
057	101.01	88.10	80.00	電気業
057	101.01	88.10	80.00	電気業
080.1	100.00	80.0	80.0	電気業
880.15	100.00	80.0	80.0	電気業

令和元年度 株式会社 どまんなか たぬま 営業収支予算書

(単位 千円、%)

		予 算	前年実績	前年比	前年増減	
経 常 損 益	営業 収益	売上高	1,800,000	1,701,798	105.8%	98,202
		売上原価	1,260,000	1,197,619	105.2%	62,381
		売上利益	540,000	504,179	107.1%	35,821
		計	540,000	504,179	107.1%	35,821
	営業 費用	人件費	248,000	240,594	103.1%	7,406
		消耗品費	14,200	13,561	104.7%	639
		地代家賃	680	642	105.9%	38
		賃借料	0	0	#DIV/0!	0
		保険料	10,700	10,070	106.3%	630
		保守修繕費	8,900	7,112	125.1%	1,788
		リース料	17,600	28,489	61.8%	▲ 10,889
		租税公課	7,800	7,663	101.8%	137
		減価償却費	21,600	23,280	92.8%	▲ 1,680
		旅費交通費	8,600	7,998	107.5%	602
		通信費	1,600	1,514	105.7%	86
		水道光熱費	44,300	43,824	101.1%	476
		支払手数料	10,900	10,306	105.8%	594
		どまんなかカードボーナス	7,000	6,787	103.1%	213
		広告宣伝費	23,000	21,809	105.5%	1,191
		接待交際費	2,400	2,007	119.6%	393
清掃費	16,000	15,704	101.9%	296		
雑費	60,000	55,123	108.8%	4,877		
計	503,280	496,483	101.4%	6,797		
営業損益		36,720	7,696	477.1%	29,024	
営業外 損益	収益	雑収入	13,000	13,003	100.0%	▲ 3
		太陽光売電収入	47,000	47,333	0.0%	▲ 333
		受託料収入	0	0	0.0%	0
	計	60,000	60,336	99.4%	▲ 336	
	費用	雑支出	52,000	51,280	101.4%	720
計	52,000	51,280	101.4%	720		
営業外損益		8,000	9,056	88.3%	▲ 1,056	
経常損益		44,720	16,752	267.0%	27,968	

第16期

事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

株式会社 **どまんなか たぬま**

栃木県佐野市吉水町366-2

事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

平成30年度の日本経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、企業収益の改善を背景とした設備投資の回復により、緩やかな景気回復が続きましたが、個人消費は未だに力強さを欠いております。また、昨年夏に相次いだ自然災害により、個人消費や輸出を中心に経済は一時的に押し下げられました。世界経済においては、米中貿易摩擦の影響が顕在化しはじめ、中国経済の落ち込みが予想され、世界経済の不確実性増大の影響が出始めています。

このような状況の中、当社は、増収、増益を目指し、「休憩機能」「情報交流機能」「地域連携機能」の三つの機能を併せ持つ「道の駅」として、道路利用者はもとより、地域住民、観光客、訪れる全てのお客様に満足して頂ける施設作りを推進してきました。

平成28年12月に移動スーパー事業を立ち上げ、買い物弱者や高齢者の見守りも兼ねて事業を展開すると共に、地域の防災拠点としての役割を担うために、防災施設としての充実も引き続き図って参りました。今年度におきましては、平成29年10月にオープンしたパーラーハチで取り扱っておりますスイーツバーガーをPRする為に、スイーツバーガーフェスティバルを4月1日に開催し、広島県から八天堂の森光社長にもお越しいただき、県内外から8社ご出店していただきました。こうした新たなカテゴリーの商品開発を行い、新規顧客の開拓、顧客価値の向上、取り扱う商品のブランド価値を追及した事業展開を積極的に行ってきました。

営業面においては、公式ホームページの全面リニューアルを行い、自社で随時更新・修正ができるようにし、合わせてSNSを利用して旬の情報を随時発信し、インターネットにおける積極的な誘客、新規顧客、潜在顧客の開拓を実施致しました。

初めての試みでしたが、7月7日～10月2日の三ヶ月余に渡り、アディダスジャパン（佐野プレミアムアウトレット店）とタイアップキャンペーンを実施し、互いの店舗を相互利用していただく為の来店促進キャンペーンを実施し、新規顧客の獲得に努めました。

毎年恒例の「怪談お化け屋敷」では、施設の閉店後、地元の語り部から佐野市の民話や有名な怪談話を聞いた後に、お化け屋敷を体験していただく初のナイトツアーを開催しました（8月13日～15日）。このようにお客様に体験を通して新しい価値を提案することにもチャレンジして参りました。

9月13日に花と華の入り口を改装しリニューアルオープンし、お客様が店内に入りやすい導線変更を行い、外からも入口が目立つようにして来店促進を図りました。

また、「岩手物産展」を初開催し岩手県の県産品を展開し、好評で会期を一週間延長することとなりました。このような単県での催事が弊社にとって効果的でしたので、今後も引き続き実施して参ります。

スマホキャッシュレス決済「PayPay（ペイペイ）」を2月14日から導入し、キャッシュレス社会への対応を県内の道の駅の中でもいち早く取り入れました。3月末現在、栃木県内の1店舗での利用数で1位となっております（量販店・チェーン店を除く）。

その他、コスト削減策として東電と交渉し電気料金の見直しを行うと共に、節水対策として、節水バブルの導入、お買物代行サービスについては【移動スーパーとくし丸】の利用への変更を

行い、5月末に代行サービスを終了しました。遊具施設には新たなパーゴラを設置し、施設の老朽化の改善にも着手し、環境美化にも対応して参りました。

【移動スーパーとくし丸】事業も開業から2年が経ちました。開業当初は2台でスタートしましたが、現在は3台稼働しております。佐野市全域と足利市の一部をカバーし、年間実績も3台合計53,057千円 前年比120%の結果となり売上も順調に伸びております。また、佐野市と高齢者見守りネットワーク協定を結び、地域の見守りの役目も果たしております。地域の包括センターとは良好な関係を保ち、引き続き、高齢者の見守りも兼ねた移動スーパー事業をより一層推進して参ります。

【どまんなかマルシェ イオンモール小山店】は、オープンから3年が経過しました。地元の小山市の商品を数多く取り揃えることを戦略的に実施し、再来店して頂ける店舗作りを行っております。特に今期はイチゴの生産農家が増え、それに伴い客数と売上が急伸し、3月末時点で前年比108.1%で推移しております。引き続き、小山市・結城市・八千代町等近隣の生産農家から地元の新鮮な野菜を品揃えし、青果の充実を図ると共に、本社のある佐野市とイオンモール小山店との間の専用の配送便で、互いに足りない野菜や魅力ある商品の連携販売を強化致します。また、11月に【どまんなかマルシェ】、12月に【道の駅どまんかたぬま朝採り館】で酒類販売業免許を取得し、お客様同士の口コミで良い情報が拡散しており、今後とも品揃えの強化、売場の改善を進め、お客様に満足していただける店作り而努力して参ります。

自社型電子マネー「どまんなかカード」の発行枚数が3万1,800枚を超え、売上に占めるどまんなかカードの利用割合は11.3%（平成31年3月末時点）でございました。

太陽光発電事業につきましては、年間売電収入が47,333千円となり、前年比108%の伸張でした。

社会貢献面においては、前述の通り移動スーパーの展開、各種公共団体への会場提供や協賛広告の投稿、福祉施設利用者へのランチサービス、市内学童野球大会の試合球の提供などを行いました。

このような施策を鋭意努力し、平成30年度の営業成績は、他同様施設を始め、小売、飲食業界が軒並み前年実績を割るなか、当社は前年実績を保ち、総売上高17億179万円（前年比100.0%）と、前年を確保し終了致しました。

(2) 会社に対処すべき課題

令和元年度の日本経済は、輸出増加に加え、消費や設備投資など内需が底堅く推移し、さらには経済対策の効果が表れることで、引き続き緩やかな回復を維持していくと見込まれます。しかし、10月に消費税率の引き上げが予定されており、この消費税率引き上げが日本経済にどのように影響してくるかが懸念されるところです。また、世界経済も、政治や金融市場、地政学的なリスク、米中貿易摩擦に伴う景気の下振れ懸念も残り、回復の基盤は脆弱と考えられます。10月の消費税増税への懸念、人口減少及び労働者人口減少による人手不足等、今後の景気や消費、労働環境の見通しに対し、依然先行き不透明な状況が続くと思われま

このような状況において、当社は充実した施設の魅力をさらに上げるべく、お客様に御満足頂ける豊富な商品と新しいメニューの提案、心のこもったおもてなしで、新たなライフスタイルを提案できる店舗づくりを目指し、お客様に「美味しさと楽しさ」を提供して参ります。

施設面においては、近い将来、【農産物直売所 朝採り館】の改装を実施し、よりお買物をしやすく、地域の人が繰り返し利用していただける直売所を目指します。

休憩スペースの充実としては、屋外でのくつろぎの場所を提供し、屋内においては、土日祝祭日に大ホールの使用がない場合は、臨時休憩所として開放して、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるような、快適なフリースペースを提供致します。

販売部門においては、去る4月18日に【パン工房麦畑】を全面リニューアルし高級生食パン特化型ベーカリー【うまい食パン】に生まれ変わりました。お客様から大変ご好評をいただき、現在も行列の絶えない店舗となっております。【うまい食パン】は、昨今の食パンブームにも適応し、今期の重点戦略店舗と位置付けております。【朝採り館】では、特に果実の販売に力を入れ、いちごを中心に販促を続け、野菜の品揃え、販売スキル共に県内でもトップの直売所を目指し、売上UPに繋げて参ります。顔の見える生産者の野菜にこだわり、地元をはじめ、全国からもこだわりの商品を集め、独自性並びにブランド力を高めた商品の展開をすると共に、物産展も抜本的に見直し、単県での物産展展開に特化し、お客様に御満足頂ける新しい提案をして参ります。

飲食部門においては、食材を吟味し、旬の素材を活かした新メニューの開発、充実した施設と利便性を生かした飲食企画の提案を行います。女性のお客様を意識し、健康に関連した新メニューの提案を積極的に行います。

接客サービスにおいては、基本的な挨拶・接遇をもう一度学び直し、接客の基本が身に着く研修を行い、当社の理念・価値観の基に、全員が同じレベルで接客サービスが出来るように力を入れて参ります。

社会貢献面においては、【道の駅】としての役割を認識し、【移動スーパーとくし丸】の稼働により、地域の買い物弱者の救済に益々力を入れて参ります。今年度の取り組みとして、【佐野警察署】と【道の駅どまんなかたぬま】で連携協定を結び、地域の防犯対策や交通安全活動にも積極的に寄与して参りたいと考えております。

イベント面においては、従来の恒例イベントの他、みんなが笑顔になれる【どまんなかたぬま】ならではの特色ある、更に質の高いイベントを企画し、実行致します。

媒体、メディア戦略面では、公式ホームページを軸にSNSを有効活用し、インターネットでの情報発信サービスをさらに加速させ、お客様同士の口コミで来店客数が増える様に施設内にアートを取り入れ、そこで撮った写真を投稿していただくような仕組みを作ると共に、旬な情報を弊社から投稿し、新規顧客の確保及び誘客を積極的に実施致します。また、定期的に折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体戦略も合わせて行います。

最後に、お客様が体験できるようなイベント・仕掛けをより多く推し進め、単に商品を売るだけ、メニューを提供するだけではなく、引き続き体験を通した“コト消費”の充実を図って参ります。お客様の潜在ニーズをキャッチする努力をし、新しい商品・サービスを提供すると共に、SNSを活用した広報戦略を拡大し、お客様からお客様へ情報を拡散して頂ける方策に努め、今まで利用したことがない、或いは全く当店を知らなかった新しいお客様の来店促進に努め、弊社のサービス、商品の提案・イベント等を共有して頂ける仕組みを構築し、新しい【どまんなかたぬま】を創造して行く所存です。

このような取り組みを行い、充実した施設の魅力を十分に発揮し、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、収益向上、安定経営に向けて取り組み、名実ともに「日本一の道の駅」を目指し、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2.会社の概況（平成31年3月31日現在）

(1) 主要な事業内容

当社は主として次の事業を営んでおります

- ① 道の駅施設の管理運営
- ② 小売業並びに飲食業

(2) 株式の状況

- ① 株式の総数 2,256 株
発行済株式数 614 株
- ② 株主数 7 名
- ③ 株主

株 主 名	当社への 出資状況		当社の大株主 への出資状況	
	所持 株式数	持株 比率	所持 株式数	持株 比率
佐野市	500 株	81.4%	—	—
佐野農業協同組合	40 株	6.5%	—	—
佐野市あそ商工会	20 株	3.3%	—	—
佐野信用金庫	20 株	3.3%	—	—
株式会社足利銀行	20 株	3.3%	—	—
株式会社群馬銀行	10 株	1.6%	—	—
みかも森林組合	4 株	0.6%	—	—

(3) 自己株式の取得、処分等および保有

【取得株式】

記載すべき事項はありません。

【処分株式】

記載すべき事項はありません。

【保有株式】

普通株式 株式会社足利銀行 10,000 株

保有価格の総額 4,200 千円

(4) 主要な借入先

借入先	借入額（千円）	借入先が有する当社の株 式の数及び議決権比率	
		株数	比率
足利銀行 田沼支店	503,549	20 株	3.3%
足利銀行 田沼支店 社債	100,000		
佐野信用金庫 田沼支店	6,974	20 株	3.3%

(5) 企業結合の状況

記載すべき事項はありません。

(6) 従業員の状況

(平成31年3月末現在)

	正社員	嘱託	パートナー	アルバイト	派遣	合計
男子	13	4	1	6	0	24
女子	10	1	43	15	2	71
計	23	5	44	21	2	95
内、外国人	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)

※パート従業員の事を弊社では「パートナー」と読んでいます。

(7) 事業所

本店：栃木県佐野市

小山店：栃木県小山市（イオンモール小山店専門店街1階）

(8) 取締役及び監査役

(平成31年3月末現在)

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役社長	篠原 敏秀	株式会社 どまんなか たぬま
取締役	新井 富夫	みかも森林組合
取締役	廣瀬 正道	佐野市あそ商工会
取締役	提箸 崎夫	佐野農業協同組合
取締役	落合 正	佐野副市長
取締役	松本 仁	佐野市
監査役	石原 一行	司法書士

貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 255,256,340】	【流動負債】	【 171,479,253】
現金及び預金	187,360,645	買掛金	73,467,293
売掛金	22,101,020	未払金	65,779,579
商 品	7,589,348	未払費用	2,405,193
原 材 料	13,450,271	前受金	21,364,912
貯蔵品	15,157,733	預り金	4,024,876
立替金	685,800	未払法人税等	1,770,800
未収入金	8,858,503	未払い消費税等	2,666,600
前払費用	53,020	【固定負債】	【 610,523,000】
【固定資産】	【 827,348,060】	長期借入金	510,523,000
(有形固定資産)	(779,956,913)	社 債	100,000,000
建 物	213,143,164	負債の部計	782,002,253
建物付属設備	50,093,995		
構築物	223,282,016		
機械装置	248,590,727		
車両運搬具	6,270,793		
工具器具備品	24,683,989		
土 地	11,953,658	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	1,620,000	【株主資本】	【 304,892,931】
一括償却資産	318,571	[資本金]	[30,700,000]
(無形固定資産)	(327,000)	[利益剰余金]	[274,192,931]
無形固定資産	327,000	利益準備金	3,784,000
(投資その他の資産)	(47,064,147)	(その他利益剰余金)	(270,408,931)
投資有価証券	4,200,000	別途積立金	10,000,000
出 資 金	50,000	繰越利益剰余金	260,408,931
長期前払費用	36,201,768	(うち当期純利益)	(11,273,426)
保証金	6,547,000		
事業保険積立金	65,379	純資産の部計	304,892,931
【繰延資産】	【4,290,784】		
繰延資産	4,290,784		
資 産 の 部 計	1,086,895,184	負債・純資産の部計	1,086,895,184

損益計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
【 売 上 高 】		
売 上 高	1,691,259,592	
販売手数料	8,980,641	
施設使用料収入	1,557,865	1,701,798,098
【 売 上 原 価 】		
期首棚卸高	8,664,300	
仕入高	1,039,107,237	
当期製品製造原価	157,436,855	
合 計	1,205,208,392	
期末棚卸高	7,589,348	1,197,619,044
売上総利益		504,179,054
【販売費及び一般管理費】		496,483,752
営業利益		7,695,302
【 営 業 外 収 益 】		
受取利息	1,408	
受取配当金	111,500	
雑収入	60,222,782	60,335,690
【 営 業 外 費 用 】		
支払利息・割引料	3,844,216	
減価償却費	47,216,511	
現金過不足	218,817	
経常利益		51,279,544
【特別損失】		16,751,448
固定資産除却損	3,707,222	3,707,222
税引前当期純利益		13,044,226
法人税住民税事業税		1,770,800
当期純利益		11,273,426

個別注記表

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

株式会社 どまんなか たぬま

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

[資産の評価基準及び評価方法]

棚卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・仕掛品・製品・・・・・・・・最終仕入原価法

商品・貯蔵品・・・・・・・・最終仕入原価法

[固定資産の減価償却の方法]

有形固定資産・・・・・・・・建物は定額法、建物以外は定率法

[収益及び費用の計上基準]

収益は実現主義、費用は発生主義により計上している。

[その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項]

消費税等の会計処理

税抜方式で計上している。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

[発行済株式の種類及び総数に関する事項]

発行済株式

614 株

[配当に関する事項]

当事業年度後に行う剰余金の配当に関する事項

令和元年 6 月 24 日の定時株主総会

配当金の総額 3,070,000 円

1 株当たり配当金 5,000 円

配当基準日 平成 31 年 3 月 31 日

効力発生日 令和元年 6 月 24 日

株主資本等変動計算書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月 31日

株式会社 どまんなか たぬま

(単位：円)

	株 主 資 本										純 資 産 計	
	資 本 金		資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		自 己 株 式	株 主 資 本 計		評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		新 株 予 約 権
当期首残高	30,700,000				3,784,000	259,135,505			293,619,505			293,619,505
当期変動額												
当期純利益								11,273,426	11,273,426			11,273,426
当期変動額合計								11,273,426	11,273,426			11,273,426
当期末残高	30,700,000				3,784,000	270,408,931			304,892,931			304,892,931

	利 益 剰 余 金 の 内 訳			
	利 益 準 備 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 計
当期首残高	3,784,000	10,000,000	249,135,505	262,919,505
当期変動額				
当期純利益			11,273,426	11,273,426
当期変動額合計			11,273,426	11,273,426
当期末残高	3,784,000	10,000,000	260,408,931	274,192,931

監査報告

私、監査役は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの
第16期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書、個別注記表、
事業報告および、附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和元年5月13日

株式会社 どまんなか たぬま
監査役 石原 一行

報告書

前記のとおりご報告申し上げます。

令和元年5月13日

株式会社 どまんなか たぬま
代表取締役社長 篠原 敏秀
取締役 新井 富夫
取締役 廣瀬 正道
取締役 提箸 崎夫

... ..
... ..
... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..